



プレスリリース

2011年11月11日

報道関係者各位

国立障害者リハビリテーションセンター

実用性の高い福祉用具・機器の開発・普及に向け「福祉工学カフェ」を開催
～ 福祉用具・機器の利用者側と産官学開発者の直接対話を促進 ～

[ポイント]

- 利用者側と開発者側の相互理解を深め、福祉用具・機器のニーズとシーズをマッチング。
- 次回（第6回）は「ロボット技術応用」をテーマに12月2日に開催。
- 「ゲストMC制」を導入し、広くテーマを募集。当事者参加型の運営を目指す。

[発表概要]

国立障害者リハビリテーションセンター研究所は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との共催で、福祉用具・機器の利用者側と開発者側および機器に関心のある方々の直接対話を促進する「福祉工学カフェ」を開催しています。今回は、「ロボット技術応用」をテーマに12月2日に開催します。リハビリテーションや生活支援のために、ロボット技術を活用している研究・開発事例を紹介する予定です。福祉用具・機器にご関心ある方々の幅広いご参加を期待します。

福祉工学カフェのねらいは、福祉用具・機器の利用者側に技術の一端を知ってもらい、利用者側と開発者側の相互理解を深めることで、実用性の高い福祉機器の開発・普及を促進することにあります。昨年10月より、肢体不自由者・聴覚／視覚障害者のための支援技術や、先端技術の福祉応用をテーマに、計5回のカフェを開催しました。その結果、障害当事者・医療／介護従事者・開発者・研究者・行政関係者など、幅広い立場の人々が延べ208人参加し、活発な議論が交わされました。

今後、福祉工学カフェでは、当事者参加型の運営を目指して、「ゲストMC制」(＝参加者が開催

テーマを提案し議事に関わる、MC (Master of Ceremony の略)を導入します。参加者から身近な問題意識にもとづいてカフェのテーマをご提案頂き、実行委員会は、提案されたテーマに沿って講師の選定・依頼・スケジュール調整などの事務処理を代行します。これにより、参加者の方々に、少ない負担で、より主体的な関わり方を提供できると考えています。

福祉工学カフェ HP: http://www.rehab.go.jp/ri/event/at_cafe2010/top.html

<問い合わせ先>

国立障害者リハビリテーションセンター研究所

障害工学研究部長 小野栄一

E-mail: ono-eiichi@rehab.go.jp

TEL: 04-2995-3100

FAX: 04-2995-3132

【次回の開催案内】

第6回福祉工学カフェ

■ テーマ：「ロボット技術応用」

■ 場所：NEDO 分室

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2

大同生命霞が関ビル 12 階

■ 日時：2011 年 12 月 2 日（金）13：15 ～ 16：45

■ 講演：

「身体的引き込みメディア技術」

岡山県立大学情報工学部 教授

渡辺 富夫 氏

「ロボット技術を応用したリハビリ支援」

九州産業大学工学部バイオロボティクス学科 教授

榊 泰輔 氏

「空気圧式人工筋肉によるパワーアシスト技術（仮題）」

ダイヤ工業株式会社

小川 和徳 氏

1. 福祉工学カフェ開催の経緯

<福祉機器開発の実情>

福祉用具・機器の開発における問題点として、下記のような点が指摘されてきました。

- 家電などの一般的な製品に比べて市場規模が圧倒的に小さいため、技術革新が起きにくく、他分野からの技術移転も進みにくい。
- 開発者が利用者のニーズを的確に把握することが難しい。障害の状況や生活環境など、多様な知識や経験が必要であり、専門家にも困難な作業。
- 利用者側も、活用できる技術（シーズ）への知識を得る場が少なく、自らのニーズをどこに持っていけばいいのかがわからない。

このような現状を解決するための方策の一つに、利用者と開発者の直接対話を促すことが挙げられます。両者の相互理解が深まれば、シーズとニーズがダイレクトに結びつき、実

用性の高い機器開発に結び付くことが期待されます。

＜直接対話を目指して＞

福祉用具・機器の利用者側と開発者側の対話と相互理解を促進するために、これまでに下記のような事業が試みられてきました。

- 福祉用具ニーズ情報収集・提供システム（テクノエイド協会）： Web サイトを通じて、利用者と開発者が意見を交換できるシステム。誰でも閲覧可能な掲示板での議論や、開発に直結するクローズドな議論が可能である。2010年度より運営が開始された。（Web サイト：<http://techno-needs.net/>）

- 障害者自立支援機器等開発促進事業（厚生労働省）：2010年から開始された、自立支援機器等の開発促進事業。採択された開発プロジェクトには、障害当事者を被験者としたモニター評価が義務付けられ、厚生労働省が医療福祉専門職等の適切なアドバイザーを推薦するなど、実用的製品化に向けての開発を促進するべく支援される。

【参考】2010年度の本事業での開発の一般公開の様子と自立支援機器関連の施策が書かれた記事：

<http://www.chuohoki.co.jp/products/magazines/kouseiroudou/pdf/kousei1106.pdf> (厚生労働省の広報誌「厚生労働」2011年6月号の特集)

- 障害者自立支援機器等研究開発事業（厚生労働省）：2009年に、自立支援機器またはその一部の試作機を作り、障害当事者にモニター評価をしてもらう事業を行った。成果の中には、要素技術としては既存のものを用いた場合でも、自立支援機器として見える形にしたものとして、世界初・日本初となる試作機もあった。

【参考】成果報告：

http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/cyousajigyou/jiritsushien_project/seika/seika_mokuji.htm

福祉工学カフェはこのような取り組みの延長として、利用者と開発者のより直接的な対話を促進することを目的としています。欧米では、例えば「コンセンサス会議」や「技術フォーサイト」のように、社会的な技術課題の解決法や科学技術政策を議論する場に、専門家と一般市民が対等な立場で参加することが一般的になってきています。福祉工学カフェも、福祉用具・機器に関する課題を社会で広く共有すべき問題としてとらえ、その解決策を議論する場として発展していくことを目指します。そのために、今後は障害者支援機器にとどまらず、介護・高齢者支援のための機器開発も含めた議論を実施する予定です。

2. 福祉工学カフェの開催概要

これまでに、下記のようなカフェを開催してきました。図1に示したように、幅広い立場の方々が参加されました。より詳細な情報は、福祉工学カフェのホームページをご参照下さい。(福祉工学カフェ HP : http://www.rehab.go.jp/ri/event/at_cafe2010/top.html)

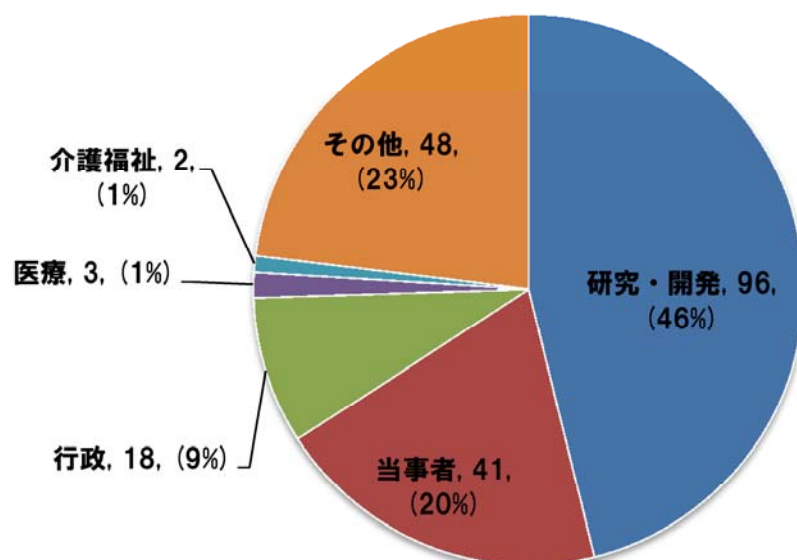


図1 福祉工学カフェ参加者の立場内訳 (のべ人数, 総数 208 人).

- 第一回 移動および機器操作関連
- 第二回 視覚障害者支援関連
- 第三回 聴覚障害者支援関連
- 第四回 先端技術の福祉応用 ～当事者関与の重要性と困難さ～
- 第五回 震災と福祉機器

3. ゲストMC制

福祉工学カフェでは、カフェのテーマを設定する「ゲストMC」(=参加者で開催テーマを提案し、提案テーマの議事に関わる人、MC ;Master of Ceremony の略)を募集しています。従来は、カフェのテーマは実行委員会が独自に設定していました。ゲストMC制を導入することで、障害当事者や企業開発者がより主体的にカフェの運営に関わることができると考えます。講師の依頼やスケジュール調整といった面倒な事務手続きは従来通り実行委員会が行い、参加者が負担を気にすることなくゲストMCに立候補できるように配慮します。具体的な手続きは以下の通りです(図2参照)。

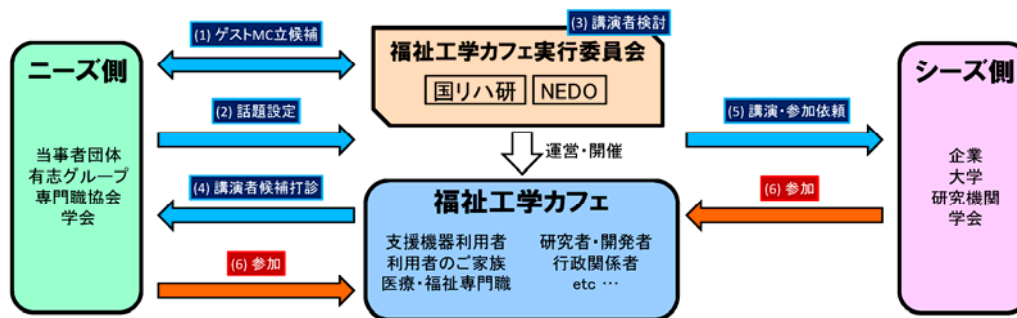


図2 ゲストMC制の概要.

■ ゲストMC制の手続き

(1) ゲストMCへの応募：

一般の参加者の中から、個人またはグループ・団体としてゲストMCにご応募して頂きます。実行委員会は、福祉工学カフェの趣旨に照らし合わせて採択の可否を検討し、正式にゲストMCを依頼します。

(2) テーマ設定：

「こういうことに困っている」、「こんなことはできないだろうか？」というような具体的な思いをお伝え頂き、実行委員会と相談しながらテーマを設定します。

(3) 講演者検討：

ゲストMCとの協議をもとに、実行委員会が講演者候補を選定します。

(4) 講演者候補打診：

選定した講演者候補リストを実行委員会からゲストMCに送付し、確認・承認して頂きます。

(5) 講演・参加依頼：

承認された候補者へ、実行委員会から講演を依頼します。また、必要に応じて、関係する分野の方々にフリーディスカッションへの参加を依頼します。

(6) 参加：

ゲストMCには、当日ご参加して頂きます。議事進行はゲストMCと実行委員会で協力して進めさせて頂きます。

*上記のプロセスは、福祉機器のニーズ側をゲストMC役として想定していますが、シーズ側（企業や研究機関の開発者や研究者）に立候補して頂くことも可能です。その場合は「こういう機器を検討しているが使えるだろうか?」、「〇〇障害の方々がどんなことに困っているのか知りたい」といった問題提起をもとに話題を設定します。

4. 推進メンバー

・福祉工学カフェ実行委員（50音順）：

井上剛伸：国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長

内海沙世子：同・障害工学研究部 流動研究員

小野栄一（発起人）：同・障害工学研究部長

柴田芳幸：同・義肢装具技術研究部 流動研究員

硯川潤：同・福祉機器開発部 研究員

森郁恵：厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部企画課 自立支援振興室 福祉工学
専門官

以上